

南紀熊野ジオパーク
WAKAYAMA GEO TOPICS
基礎知識



ジオパークガイドの芝崎さん。各ジオサイトで、できるだけ対象物の近くに寄り、触れるなどして、自然のパワーを感じてもらえるように案内することを心がけている。

かせいがんたい
火成岩体
橋杭岩／串本町

南紀熊野で知る 紀伊半島という奇跡

ジオパークは地質・地形はもちろん、人々の暮らしや文化も重要な要素である。「南紀熊野は地質学的に非常に重要な場所、日本列島を構成する、付加体・前弧海盆堆積体・火成岩体といった3種の大地をまとめて見ることで、これは世界的にも非常に珍しいことなんです」と語るのは、南紀熊野ジオパークセンター長の鈴木博之さん。形成された時代が異なる付加体があり、また日本で最大級の前弧海盆堆積体である熊野層群も見ることができ、プレート沈み込みによる大地の成り立ちがよくわかるという。

「さらに南紀熊野では、滝や巨岩、巨木などの自然が信仰の対象となり、それ自身が観光資源となっています。自然崇拜とジオの存在が重なっているんですね。」

案内をしてくれたジオパークガイドの芝崎浩子さんも「学生時代は高知大学で岩石学を学び、いろんな地質や地形を見てきました。しかし南紀熊野は特に自然に対する畏敬の念が強く、巨岩などが信仰の対象とされていることが他の地域より多いと思います」と語る。それは、熊野三山や熊野古道を有する世界遺産地域に暮らす人たちにとって、昔から大切に守

られてきた生き方そのもの。「知識では分かっているけど、近くに行かなくては分からないことがあります。潮溜まりの生き物や動きそうで動かせない岩、その大きさや神々しさ。南紀熊野に来て大地や岩に触れ、地球のダイナミズムを感じてください」と芝崎さん。

約1400万年前の火山活動で生まれた「橋杭岩」。途切れることなく打ち寄せる波が岩脈のまわりを浸食し、何度となく襲った津波が崩落した岩を動かし、今この景観を見せている。この絶景も永遠ではない。自然の力が創った奇跡の瞬間である。

南紀熊野ジオパークセンターが 地域で果たす役割とは？



「南紀熊野ジオパーク」の活動当初から、顧問として関わっている鈴木博之センター長。中学生の頃から地学に目覚め、50年に渡って紀伊半島の隅々まで調べ歩いた根っからの地質学者。「見るだけ」ではなく、「触って感じる」ことができる施設内の設備は、楽しみながらジオが学べると子供だけでなく大人にも好評。「さらにセンターの素晴らしいところは、館内を案内するジオパークガイドさんたちです。みなさん自発的に勉強し、難しくなりがちな「ジオ」の話をわかりやすく説明してくれています。地元の人々とジオパークセンターの「いい関係」は、観光をはじめとする今後の南紀熊野を盛り上げるという大切な役割もあります」。

①紀伊半島の地質に詳しい鈴木センター長。②紀州材がふんだんに使われたジオパークセンター。大地の成り立ちや迫力ある写真を見ると、自然と気分が盛り上がる。③難しい地質の話も、スタッフや常駐のジオパークガイドが分かりやすく説明してくれる。

南紀熊野ジオパークセンター
住所／東牟婁郡串本町潮岬2838-3 電話／0735-67-7100

観光に便利な一日券と まぐトル号



ジオパークの観光利用を目的に県や串本町、地元の事業者等で組織する「くしもと観光周遊バス推進協議会」が運行を始めた「まぐトル号」。串本駅を出発し南紀熊野ジオパークセンターや大島を周遊する。1乗車500円だが、コミュニティバスも乗り放題となる一日券(1000円)がお得。

くしもと観光周遊バス推進協議会
住所／東牟婁郡串本町潮岬2838-3(南紀熊野ジオパークセンター内)
電話／0735-67-7100



ジオパークを支える、 地元愛に満ちたガイドたち！

養成講座を修了し「南紀熊野ジオパークガイドの会」に登録されているガイドは97人。ジオサイトやセンター内で、ジオパークの自然と人の繋がりについて分かりやすく楽しく案内してくれる。各ガイドの得意分野は多岐にわたり、地質学はもちろん、動植物から熊野の歴史や文化までバリエーション豊かで地元愛に溢れた人ばかり。またガイド同士で勉強会を開催したり、わかりやすい説明の仕方などを自発的に教えあうなどしているという。

南紀熊野ジオパークガイドの会
住所／東牟婁郡串本町潮岬2838-3(南紀熊野ジオパークセンター内) 電話／0735-67-7730
①川の成り立ちや地形の変化などを説明することができる装置は、ガイドの力の見せ所。②楽しいに互いの得意な分野について、説明方法を教えあうガイド達。